

至誠館大学

| | | | | | | |
|---|---|------|--|------|--------|-----|
| 科目名 | スポーツ社会学演習 | | | コード | | |
| 英語表記 | Sociology of Sport (Sem.) | | | | | |
| 担当教員名 | 國木孝治 | | | 年度 | 平成28年度 | |
| 基準年次 | 3年次 | 開講期 | 後期 | 単位数 | 2 | |
| 授業形態 | 演習 | 授業形式 | | 履修形態 | 選択 | |
| 授業概要 | | | | | | |
| この授業は、生涯スポーツや中学校および高等学校教育におけるスポーツに関する社会的な問題を研究していく上で必要となる基礎的な内容を取り上げ、テキストの講読及び演習を通して知識を深めることをねらいとしたものである。具体的には、スポーツ社会学で一般的に用いられる社会調査の基礎的な知識を学習した後、スポーツに関する社会調査を企画・実施し、コンピュータによるデータ処理及び分析、研究レポート(リサーチペーパー)の作成演習を行う。 | | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | |
| (知識・理解) 1) 学校体育とその教育における基本的知識と理解 2) 社会体育とその教育における基本的知識と理解 3) 健康やスポーツに関する 1)2)を含んだ幅広い知識と理解 (知的能力・技能) 1) 学校体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる 2) 社会体育に関する資料・情報を収集し、関連したテーマにまとめたり、批判的に検討できる 3) 健康やスポーツに関する諸問題に関心を持ち、それらを研究することができる | | | | | | |
| 授業計画 | | | | | | |
| 第1回 | ガイダンス: 受講上の諸注意と情報教育センターでのパソコンの活用について | | | | | |
| 第2回 | 学術論文検索法の学習、スポーツ社会学における学術研究の動向 | | | | | |
| 第3回 | 社会調査の理論(1): 社会調査法とは | | | | | |
| 第4回 | 社会調査の理論(2): 分析方法 | | | | | |
| 第5回 | 社会調査の理論(3): データ処理法 | | | | | |
| 第6回 | 社会調査の実際(1): 調査票の作成: 調査の企画・設定と調査票作成のプロセス | | | | | |
| 第7回 | 社会調査の実際(2): 調査票の作成: 質問文の作成 | | | | | |
| 第8回 | 社会調査の実際(3): 調査票の作成: サンプリング | | | | | |
| 第9回 | 社会調査の実際(4): フィールド調査の実施 | | | | | |
| 第10回 | 社会調査の実際(5): 調査結果の集計・分析: データ整理 | | | | | |
| 第11回 | 社会調査の実際(6): 調査結果の集計・分析: 統計的検定 | | | | | |
| 第12回 | 社会調査の実際(7): 調査結果の集計・分析: 回帰分析 | | | | | |
| 第13回 | 研究レポート(リサーチペーパー)の執筆: 調査結果の図式化 | | | | | |
| 第14回 | 研究レポート(リサーチペーパー)の執筆: まとめ方 | | | | | |
| 第15回 | 研究レポート(リサーチペーパー)の提出、授業総括 | | | | | |
| 評価方法と基準 | | | 評価項目と割合 | | | |
| 授業参画度、研究レポートの提出とその内容に基づき、総合的に評価する。 | | | 授業態度 | 期末試験 | レポート | その他 |
| | | | 40 | | 50 | 10 |
| 授業外学習 | | | テキスト、教材 | | | |
| 受講生は自らの研究課題について、データの分析結果を基に、予習・復習すること。 | | | 適宜配布 | | | |
| 参考書 | | | 受講生へのメッセージ | | | |
| ・大谷信介ほか(2013)新・社会調査へのアプローチ: 理論と方法、ミネルヴァ書房: 東京。 | | | ・「スポーツ社会学」(講義)の単位を取得済みであること。 ・アンケート調査等、社会科学系の研究を希望する学生は積極的に履修のこと。 ・3年生のみ受講可。4年次の履修は認めない。 | | | |